

2021

認定特定非営利活動法人Future Code
活動報告書



Bridging to the future for global health

2022 年 5 月 1 日

Haiti

2021 年ハイチ地震 緊急支援と病院再建

ハイチ時間 2021 年 8 月 14 日（土）午前 8 時 29 分（日本時間 14 日午後 9 時半頃）、ハイチ共和国でマグニチュード 7.2 の大地震が発生しました。

震源は首都ポルトープランスから南西 125km で、震源の深さは 10km。死者 2,200 人以上、負傷者 1 万 2,000 人以上、行方不明者 300 人以上、全半壊した家屋 13 万 7500 軒以上、被災者は 80 万人以上にのぼりました。

FutureCode では 3 回に分け、総額約 160 万円の緊急支援を行いました。みなさまからの暖かいサポートをいただき、迅速な対応を行うことが出来ました。

被災地域にて今なお困難な状況にある方々へ、現地と連携をとりながら、今後も継続して必要な支援を続けたいと思います。

2021/8/15

ハイチで再びマグニチュード 7.2 の震災が起きました。

街が倒壊し、死者多数との報告が来ていますが、被害の規模は依然不明ですが、私たち FutureCode は、ただちに緊急支援活動開始します。被災地であるジェレミーやその近郊で孤立した都市に向かい、まず可能な限りで支援の届きにくい場所を迅速に選定し、食糧支援を行います。

またこの被災地には、2016 年のハリケーン被災後に我々 FutureCode が再建し、支援を続けていたクリニックがあります。その被災状況を調べ、施設が生きていれば、医療スタッフと合流し、そこに薬剤や機材をさらに支援し、医療活動を開始する予定です。

中米 ハイチでM7.2の地震 現地で海面変動を観測 揺れによる被害も懸念
27 8/14(土) 21:45 配信
WNN ウェザーニュース



中米 ハイチでM7.2の地震

日本時間の8月14日(土)21時29分頃、海外で規模の大きな地震がありました。震源地は中米（ハイチ）で、地震の規模（マグニチュード）は7.2と推定されます。

※震源は米国地質調査所国立地震情報センター (USGS,NEIC)による。





2021/8/20

この8月14日に起こったM7.2の震災では、すでに死者約2200名、負傷者12000名以上との報告が出ています。

チームは被災地に入り、2カ所で被災者に食糧と医薬品の提供を開始しました。

今後、2016年のハリケーンで被災後にFutureCodeの支援により再建したクリニックに向かい、被災状況を調べて連携をはかる予定です。

現地の状況は、倒壊した場所も多く、混乱を極めており、現在でも被災状況の正確な情報をつかむことは困難です。

しかし、被災した人々を少しでも支援できるよう、出来ることを出来るだけ行います。



2021/8/21

地震から72時間が経過し、死者数も2000人を超えています。食糧の配送も困難であり、被災地では生き残った人々の食糧確保も大変難しくなっています。残念ながら、ハリケーン被災後に再建したクリニックも倒壊した、との報告がありました。



出来る限りの支援を行い、情報を集めながら、活動を継続したいと思います。

2021/8/26



先日のハイチ震災後、約 2200 名の死者数が確認され、被災状況を確認しつつ、食糧などの支援を行っています。

この地域で 2016 年のハリケーン被災後に FutureCode が再建したクリニックは倒壊を逃れましたが、地域の中核であったキリスト教団体の運営する医療施設は倒壊していました。

拠点となる医療施設の倒壊は、地域にとって医療が失われてしまう事となります。

今後、現時点ではクリニックと連携をはかりながら、医療を出来るだけ被災した人々に提供できるよう、支援を行いたいと思います。

この医療拠点の再建がなければ、地域への医療の提供には限界があり、なんとかこれを考えていかなければならない状況です。



2021/9/21

ハイチで先日起こった震災により、倒壊した地域中核病院の再建を支援する事となりました。急いで計画を進めています。地域の住民が医療を受ける事ができない状況であり、雨露だけをしのぎながらの生活は続いています。医療を至急立て直す必要があるため、残念ながら再建の予算が全て確保は出来ていませんが、緊急事項として開始したいと思います。



2021/10/5

ハイチの先日の震災倒壊後の病院の一棟の再建が進んでいます。

医療を受けることのできる場所が再建される事は、この地域の住民にとってとても大切なことであり、震災からの復興の大きなポイントとなっています。

現地も急ぎながら、また限られた予算をどう効率的に使うか努力しながら再建を進めており、今後も末永く現地に貢献できる施設となるように、私たちもサポートしたいと思っています。



2021/10/13

ハイチの地震で倒壊した病院の再建が続いています。

日本の皆様のご支援により、取り急ぎ診療ができる建物が一棟再建されました。

現地からは、これからさらにもう一棟、診療棟とは別の建物を作り、医療器材をいれ、多様な病気に対応できるようにさせて欲しいとの要望があります。

取り急ぎ、この完成した一棟を稼働して行くこととなります。

しかしながらより良い医療が被災地に提供できるよう、我々としても支援金は不足が続いている状況ですが、可能な限りこの病院への支援を続けたいと考えております。

FutureCode としても、より効果的な支援ができるように努力してまいります。



2021/12/23

本年 2021 年の 8 月に再び起こったハイチ震災から、倒壊した病院の再建を続けていましたが、11 月末にこの一棟が完成し、現在周囲の瓦礫を取り除きながらも稼働しています。全ての建物を再建することは資金的にも困難はありました。入院での治療は難しいですが、しかし少なくともこの地域で最低限の医療の提供は可能となりました。建物は、ハイチで医療機関を示す白と緑に塗装され、また現地側から、日本からの支援への敬意を示すため、日本の国旗が描かれました。診療の状況も、また追って報告させていただきたいと思います。



2022/3/10

昨年にハイチで地震後に再建した病院は、連日来院する数多くの患者を診療する重要な場所として稼働しています。住人からも、この病院の存在は大変喜ばれており、地域の安心にもつながっているようです。まだまだ診療のための機材も足りてはいません。これからも私たちとしても、地域の医療を担う施設でもあり、支援を継続していきたいと考えています。被災から多くの日が過ぎていますが、まだまだ元のように生活も戻ってはいません。しかし、医療を受けることのできる状況を作り続けるためにも、継続した取り組みを行っていききたいと思います。



孤児院支援



2022/1

ハイチの孤児院への食糧支援の一環として、鶏小屋を建設し、養鶏を行なっています。卵は子どもたちにとっても貴重な栄養素となります。

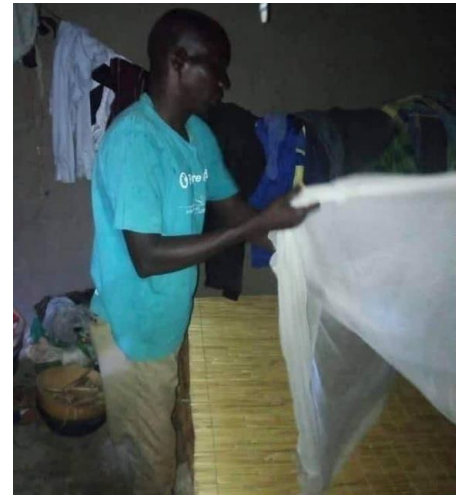
この数年、ハイチでは、大統領暗殺をはじめ政情の不安定さや、地震など自然災害にも見舞われ、孤児院は危機的状況にあり、食糧難が続いています。困難はありますが、このクリスマスの期間は特に、人に会える、再会することも子どもたちにとって大きな喜びであり、また先日のクリスマス当日では、子どもたちは教会に行き、奉仕活動を手伝ったそうです。

私たちとしても、子どもたちのより良い未来を願い、少しでも効果的に、問題の根底にアプローチする支援が出来るよう、これからも出来ることを続けていきたいと思っています。



Burkina Faso

マラリアの予防と啓発活動



2021/9

西アフリカのブルキナファソでは、子どもたちの命を脅かすマラリアの流行期となっています。

現在も FutureCode のスタッフは一軒ごとに家をまわり、蚊帳の使用状態をチェックし、破れたり、または新たに必要な場所に、蚊帳の配布を行います。

住民とも十分に話し合いながら、マラリア対策に合わせて新型コロナに対する知識の共有を行い、蚊の発生しにくい環境作りや、手洗いについてなどの啓発を行います。

現地にとって、意味のある活動が続けていけるよう、私たちも頑張りたいと思います。

マラリアのワクチン

西アフリカのブルキナファソでは、毎年マラリアで多くの子どもたちが命を落としています。この度、国際的な総合科学雑誌 Nature（ネイチャー 2021 年 10 月 28 日号）に、特集の中で医薬品メーカーのノーベルファーマ様が日本発のマラリアワクチンとして開発を進めているワクチンについて、記事広告として掲載されました。このワクチンは、他の開発されたマラリアワクチンより、現時点でははるかに高い効果を期待できるものであり、私たち FutureCode も現地ブルキナフ



Hayato Orui from Future Code, a non-profit organization, and Toshihiro Horii from Osaka University, visiting Sapone village in Burkina Faso, with Sodiomon B Sirima from the Groupe

ァソでこの開発に協力した経緯もあり、この記事に掲載いただきました。今後実用化する事は、マラリア対策として、世界的に大変重要な意味を持ちます。

私たちもできる限り、より良い未来を創るため、協力しながら共に現場で活動をしていきたいと思っています。応援どうぞよろしくお願いいたします！

水と衛生改善の啓発活動

2022/3 ①

西アフリカのブルキナファソでは、下痢などで亡くなる小さな子供はまだ多く、お母さんたちが衛生の知識を持つ事は大変重要です。

これまでも、私たちは衛生的な水へのアクセス改善や、複数のトイレの設置などを行ってきましたが、今回も二つの村の数千人を対象に、手洗いについてや、トイレをうまく使ってもらうため、衛生を改善する啓発活動を行いました。

新型コロナの脅威もあり、感染症というものに対する知識を持つ事は、より重要なものとなっています。この活動は継続して連日行っており、今後さらに地域の病院と連携しながらの新型コロナに対する物資支援、啓発活動も予定しており、これからも子供たちの死亡率改善に貢献できるよう、努力を続けたいと思います。



2022/3 ②

西アフリカのブルキナファソで、地域の病院と連携し、小さな子どもを育てているお母さんたちに対して、衛生改善のための教室を開いています。

イメージしやすいように絵を使いながら、どんな時に感染や下痢が起こってしまうのかや、もしもの時の対応などの事を正しくお母さんたちが知ることは、小さな子どもたちの命を守るためには大切なことです。地域全体の住民の衛生知識の向上にも、今後も継続して現地と共に取り組んでいきます。



Bangladesh

新型コロナウイルス対策



バングラデシュでも新型コロナ感染症はこの1月から2月にかけて大きな感染の波が来ており、検査や治療のニーズが高まっています。

昨年末から、私たちは首都ダカのミルプール地区で、診断センターを開設し、新型コロナ感染症のPCR検査機器を含めた検査機器を導入、診断から治療までを行なっています。

特に、医療支援として、検査費用や診療費用が払えない事などが問題で、新型コロナが疑われるにも関わらず医療機関受診できていなかった患者に対し、検査代や治療費を減額または無料として、2月の時点で26人を検査し、陽性となった10名の治療を行っています。

この診断センターは、将来的には、がん治療のための特殊検査も含めて、新型コロナ対策のみならず多様なニーズに合わせて、患者を選ばず現地貢献できるものと出来るよう、検査機能もさらに充実させていく予定です。



孤児院診療の継続（寄生虫治療開始）



前回に引き続き、バングラデシュのモハマドプールにある 75 名の子ども達が生活をしている孤児院 で、何らかの症状を訴える子供達 31 名に対して、検診を行いました。

主に、咳嗽、鼻水、発熱など（15 名）、皮膚掻痒感（11 名）の訴えが多く見受けられました。

前回の検診後より、疥癬対策として「寝具を全て、日に干したり洗濯し、清潔に保っています」と孤児院スタッフからの報告があり、改善の努力が見られます。

また、寄生虫が原因と考えられる症状である、肛門の痒み、食欲不振、腹部の腫れを訴える子どもたちが全体の 30%ほどに上り、今回は新たにこちらの孤児院で生活をしている 75 名の子ども達に対し、寄生虫駆除プログラムを開始しています。

このプログラムでは、半年に 1 回 1 錠（約 6.5 円/1 錠）の駆虫剤の薬を無料配布し、治療を開始。

その後は症状のあった子ども達からは寄生虫が駆除され、食欲も戻り、症状がすっかりと改善しています。

バングラデシュでも新型コロナウイルス感染症は再び拡大しており、現在、再び都市がロックダウンされる事態の最中ではありますが、私たちもできることを少しでも行動していきたいと思っています。

Japan

認定更新

2021 年 12 月 22 日、認定 NPO 法人 Future Code の審査の結果、認定継続が決定し、式典が行われました。

認定 NPO となって 5 年が経ち、これから新たな 5 年が始まります。

これまでの私たちの活動にご理解いただき、支えていただいた皆さまに感謝申し上げます。私たちとしても活動の原点を忘れず、これからの新たな 5 年はこの新型コロナとの戦いの中での経験をいかし、途上国の現場でも、より組織力・対応力の強い医療機関、組織を作るべく活動して参ります。



講演会・講義



2021/5/23

兵庫医科大学で医療入門の講義を、例年と同じく国際保健をテーマに代表の大類が担当させていただきました。

国際協力についての総論から、医学生向けに、公衆衛生学としての日本の医療にはない感染症対策のプログラムの紹介や、現場でどんな事をしているのか、グローバルスタンダードの思考とは、など、出来るだけ具体的に世界での活動からの例を用いて解説しています。

また、医師として、なぜこういう仕事をしているのか、また現場の文化や考え方、気持ちの変化などについても言及しました。

今回も医学生さんは希望者のみの対面講義とし、オンライン併用となっています。

これから数年後に医師となり、日本、また世界に羽ばたいていく学生さんたちに少しでも意義のある講義となったならば幸いです。





2022/3/26

神戸で開催されました第34回全国ローターアクト研修会で、代表 大類が基調講演に登壇させていただきました。

まだ新型コロナの脅威もある中ではありましたが、会場での講演とオンラインとのハイブリッド方式の講演でした。

ロータリーの皆様が常日頃取り組んでいらっしゃる「奉仕の心の実践」として、グローバルをテーマとして海外での支援事業の話や、今までの経験や想い、そしてこれからの未来をどう皆で創っていききたいか、など、多岐に渡る内容となっています。

「この講演は、何かの答えを知るためのものではなく、あくまで自分自身で何かを調べ、

考え始めるきっかけとなつてほしい」という大類の考えもあり、疑問を投げかけるだけ、という部分も多いものでしたが、聞いていただきました若い世代の皆様に、何か少しでも将来に役立つきっかけとなれたのであれば幸いです。

私たち FutureCode も新たな年度に向け、このコロナ禍で後退してしまった世界中の貧困の削減に、より一層貢献できるよう、これからも努力したいと思います。

Future Code BYCS（学生部の活動）

今年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学生部はオンラインを中心に活動を行っています。オンラインでの活動にも慣れ、また新型コロナウイルスの感染が収まった際には、感染対策を講じた上で、イベントへの出展も行いました。

私たちは主に2019年に販売開始となった、西アフリカのブルキナファソ国で作られたシアバターを原材料にした「hadanisha(ハダニシア)ハンドクリーム」の販売を行っています。これは、現地で伝統的に女性が中心になって収穫、加工、販売が行われているシアバターを使用することで、女性雇用を生み出し、ハンドクリームの売り上げが現地の公衆衛生・医療支援につながる Future Code の商品です。

またその他、学生部 BYCS の活動はハンドクリームの販売のみならず、イベントでのブルキナファソの紹介や、学生が行う国際協力についてメンバー同士で積極的に議論しています。学生部 BYCS は国際社会で生きる人材育成の場となっています。



写真：オンラインミーティングの様子

イベントへの参加

学生部 BYCS は国際協力関連のイベントを初め、さまざまなイベントに積極的に参加することで、国際協力活動を広めていく機会をつくっています。

昨年にひきつづき対面でのイベント開催・参加は難しい状況が続きましたが、コロナウイルスの感染が収まっていた際には、さまざまなイベントへ出展し、参加者の方へ hadanishea ハンドクリームの販売と BYCS の活動の宣伝を行いました。

普段はEC サイトでの販売が主にはなっていますが、実際に商品や活動の説明をさせていただくことで、より hadanishea 自体に関心を持っていただけたたり、よりうまく自分達の活動を伝えられるようになったりと、貴重な機会になりました。



写真：対面イベントの様子

広報活動

【SNS 活動】

昨年度に引き続き、インスタグラム、フェイスブック、ツイッターの SNS にて広報活動を行いました。今年度は動画のコンテンツも増幅させ、より消費者へ hadanishea の魅力が伝わるよう努めました。また、自社製品を分析しながら他社の SNS アカウントを参考に、hadanishea のコンセプトや雰囲気を残しつつ、統一感のあるより洗練されたアカウントになるよう工夫しました。さらに、BYCS のアカウントでは主に活動について、hadanishea のアカウントでは主に商品について宣伝するなど各媒体の特色を活かして宣伝しました。



各アカウントリンク

[Twitter](#) [FaceBook](#) (Instagram) [hadanishea](#) [BYCS](#)

【広告媒体】

今年度は自社 SNS を介して、様々な媒体やアカウントから宣伝のオファーがありました。10 月には、『西日本新聞 北九州版』の朝刊に掲載され、神戸・関西に留まらず九州地方にもその名を広めることが出来ました。

また、「サステナメディア」様や「SDGs News Japan」様を初めとする複数のインスタグラムアカウントにて、hadanishea が取り上げられ、プレゼントキャンペーン商品にもノミネートされました。

写真：2021/10/01 『西日本新聞 北九州版』朝刊

【キャンペーンの実施】

昨年度より引き続き行ったクリスマスフェアや、バレンタインフェアに加えて、2021 年度は、様々な新しいキャンペーンに挑戦しました。例えば、「良い手の日（11 月 10 日）」に由

来し、11月10日から11月14日は、hadanisheaを1本1110円で提供しました。また、年末には年末感謝祭と題して、50%オフの1本660円で提供しました。フェアを通して、より多くの方々にhadanisheaを手にとっていただくことができました。秋口から年末にかけて行った「大切な人にもう1本！キャンペーン」ではチラシを作成し、神戸や大阪内の複数の地域でポスティングを行いました。



左：クリスマスフェア・期間限定ラッピング 右：「大切な人にもう1本！キャンペーン」

【hadanishea お取り扱い店舗様との企画】

昨年度に引き続き、hadanisheaのお取り扱い店舗と合同で企画を実行しました。

「Pa moja (パ・モジャ)」様や「LiNK-HOUSE」様へは、オンラインでインタビューをさせていただき、各店舗様の素晴らしい活動をBYCSのSNSにて宣伝しました。

企画リンク

[Pa mojaさんインタビュー【Part 1】](#)

[Pa mojaさんインタビュー【Part 2】](#)

[LiNK-HOUSEさんインタビュー企画【前編】](#)

[LiNK-HOUSEさんインタビュー企画【後編】](#)

【配送料見直し】

以前は、宅急便コンパクトを利用した全国一律500円での配送のみ提供していましたが、今年度9月に、新たに普通郵便を配送方法として追加しました。この取り組みは、消費者の「配送料を下げしてほしい」「商品に比べて箱が大きい」という声から始まりました。

また、梱包資材の見直しは、商品のサイズに合った梱包資材を利用することで、エシカルな消費にも繋がります。以前は500円かかっていた送料が、最小220円になったこと、加えてポストに届くこともお客様に好評を頂いている点です。

店舗営業関連

今年度は、メール送付や電話、訪問を経て新たにご縁をいただいた、14 の店舗様でのお取り扱いが始まりました。東京都や茨城県など販売地域も拡大し、合計 24 の店舗様を通じて、多くのお客様に hadanishea を知っていただく機会となりました。

また、期間限定の POP UP ショップにも出品させていただき、hadanishea の魅力や BYCS の取り組みをお伝えしました。2021 年度末時点で 4000 本以上の hadanishea を日本中にお届けしています。



左：mumokuteki 様での POP UP 販売

右：SHIKUNJEMA 様での販売



その他の活動

【オンラインにてメンバー募集】

新型コロナウイルスの影響によりオフラインでのメンバー募集ができなかったため、zoom や BYCS 公式 LINE、グーグルフォームなどのオンライン手段を用いてメンバー募集を行った結果、無事次代を担う新メンバーを集めることができました。

オンラインツールを用いることで、遠方にいても参加できるシステムになっています。

時間や場所に囚われることなく集まることができるようになり、小さな人数で話すことができるブレイクアウトルームを用いることで、継続的に自分の意見を交換する場が構築できました。

【研修制度】

前年度から始めた研修制度の内容をさらにブラッシュアップし、既存のメンバーにも新規のメンバーにも学びが多くなるように改善しました。その他新規メンバーの発想やアイデアを大事にするためにも、研修の最後には自分が BYCS でやりたいことを企画して発表し、できそうなものから実行に取り組んでいます。

実行に取り組むことで、何が必要で、どんな計画を立てることが必要なのか。今までの自分の力を試すとともに、他のメンバーや外部の方の力も借りることを通じて、より深く、実感的に国際協力とはなんなのか、どのような力が求められるのかということを学んでいます。